

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

●名古屋大学医学系研究科看護学専攻

「専攻横断型の包括的保健医療職の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本教育プログラムでは、超高齢社会を見据えて、従来の看護学およびリハビリテーション療法学（理学療法・作業療法）の各専門領域別の教育プログラムに加えて、専攻・分野横断型の系統的な大学院教育プログラムとして、トータルヘルスプランナー（THP）養成コースを博士前期課程に新設し、包括的保健医療モデルを開発・推進する人材の育成を目指した。専攻横断型の共通カリキュラムとして、THP概論・特論・演習・セミナーの4科目、計8単位よりなり、修了時にTHP学内認定を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

THPコース担当教員によるTHP運営委員会を設置し、指導教員による個別の研究指導に加えて、学生の学修プロセスに集団的支援を提供することに注意を払った。専攻横断型の共通科目について、毎月開催されるTHP運営委員会で授業計画を共有し、学期末に担当教員から授業経過を報告し、来年度に向けた課題を検討するなど、教育プログラムの改善に継続的に取り組んだ。毎回の授業終了時には、出席した学生に授業の感想の提出を求めることで、個々の学生の学修プロセスを把握すると共に、授業内容の充実に向けて恒常的に取り組んだ。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

従来の各専攻・分野別の専門的な教育研究指導に、専攻横断型のカリキュラムを加えることによって、より幅広い知識と技術を学ぶ機会を提供することにつながった。各科目においては、毎回必ず意見交換の機会をもつことで、専攻を超えた学生間、教員と学生の交流や情報交換の機会を多くもつことができた。THP養成コースに対する修了時点での学生による評価は、コース全体として2008年度修了生では、満足した（満足・少し満足）を合わせると93.3%に及ぶなど、学生の満足度は高かった。平成19年度～21年度の大学院定員充足率は一貫して100%以上を維持し、本研究科に対する社会的期待は高いと言える。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

F. その他

②国際シンポジウム等の開催

《医療系》

●名古屋大学医学系研究科看護学専攻

「専攻横断型の包括的保健医療職の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

公開シンポジウムや関連研究会を定期的に開催し、地域住民や保健医療職との交流をもつことでTHPのさらなる役割開発や教育内容の検討を行なった。1～2か月に1回開催のTHPセミナー(ライフトピア連携研究会)では、医療・福祉・工学系など多様な分野の大学内外の研究者および実践家を招き、学生や教員による活発な討議を行った。年に1回の公開シンポジウムでは、平成20年に「高齢社会を地域で支える多職種協働アプローチ」をテーマに、多職種チーム・アプローチを学び、平成21年には「患者の意向による終末期医療の実現に向けて」と題し、豪州からカートライト博士を招き、平成22年には「患者・家族中心の在宅療養を実現するために」をテーマに、米国で推進されているPatient- and Family-Centered Careの基本概念について、ナースプラクティショナーのグリフィン氏による概説から学んだ。いずれも200名を超える保健医療福祉職の参加が得られ、社会的関心の高さがうかがえた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

通年で毎月開催されるTHPセミナー、関連研究、公開シンポジウムについては、THP養成コース履修生のみならず学生や教員全体に周知することに努めた。さらに、毎年開催する公開シンポジウムや市民公開講座では、全国の医療系大学や保健医療機関、近隣の地域住民に案内することで、THP養成コースが社会に広く認知される機会となるよう取り組んだ。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

THPセミナー、および関連研究会、公開シンポジウムの開催を通じて、THP養成コース履修生のみならず他の学生や教員が多彩な研究者、実践家の活動に触れる機会を提供した。このような取り組みは、知的好奇心や高度専門職業人としての意識を高めることに繋がるなど、大学院教育全体の活性化につながったと考える。さらに、毎年開催する公開シンポジウムや市民公開講座を通じて、地域住民や保健医療職と広く交流をもち、THP養成コースの社会的認知度の向上につながった。